

第 1 節 自然環境

1 位置及び地勢

本市は、九州の南端鹿児島県のほぼ中央部にあり、北は姶良市、南は指宿市、西は日置市などと接しています。また、東は鹿児島湾をはさみ、雄大な桜島を含んだ東西32.6km、南北50.9kmの風光明媚な都市です。

市街地は、鹿児島湾に流入する甲突川など6つの二級河川により形成された小平野部にあり、その周辺は、海拔100m～300mの丘陵地帯（シラス台地）となっています。

鹿児島市のシンボルとして知られている桜島（標高1,117m）は、市街地から約4kmの対岸にあり、平成22年は非常に活発な火山活動が見られました（表1-1）。

表 1 - 1 桜島火山活動状況 (資料：鹿児島地方気象台)

年次 1～12月	噴火 (回)	うち 爆発的噴火 (回)	噴煙 (回)	地震 (回)	降灰量 (g/m ²)	
					気象台	市役所
20	80	29	64	1,949	25	96
21	755	548	573	4,831	931	875
22	1026	896	448	6,547	753	1848

2 気象

本市の平成22年の気温は、最高気温34.7℃、最低気温-0.2℃であり、年間平均気温18.9℃という温暖な気候に恵まれています（表1-2）。

表 1 - 2 気象概況 (資料：鹿児島地方気象台)

年次 1～12月	気 温 (°C)			平均相対湿度 (%)	降水量 (mm)	日照時間 (h)
	平均	最高極値	最低極値			
20	18.7	36.5	0.2	67	2,346	1,973
21	19.0	35.7	0.2	67	1,530	1,959
22	18.9	34.7	-0.2	71	2,942	1,766

第 2 節 社会環境

1 人口及び世帯数

本市の平成22年10月1日現在の推計人口は、606,911人で、世帯数は267,308世帯、人口密度は1km²当たり約1,109人となっています（図1-1）。

人口は増加傾向にあります。人口増加率で見ると微増減を繰り返しています。

図1-1 人口の推移 (資料：市民課、総務課)

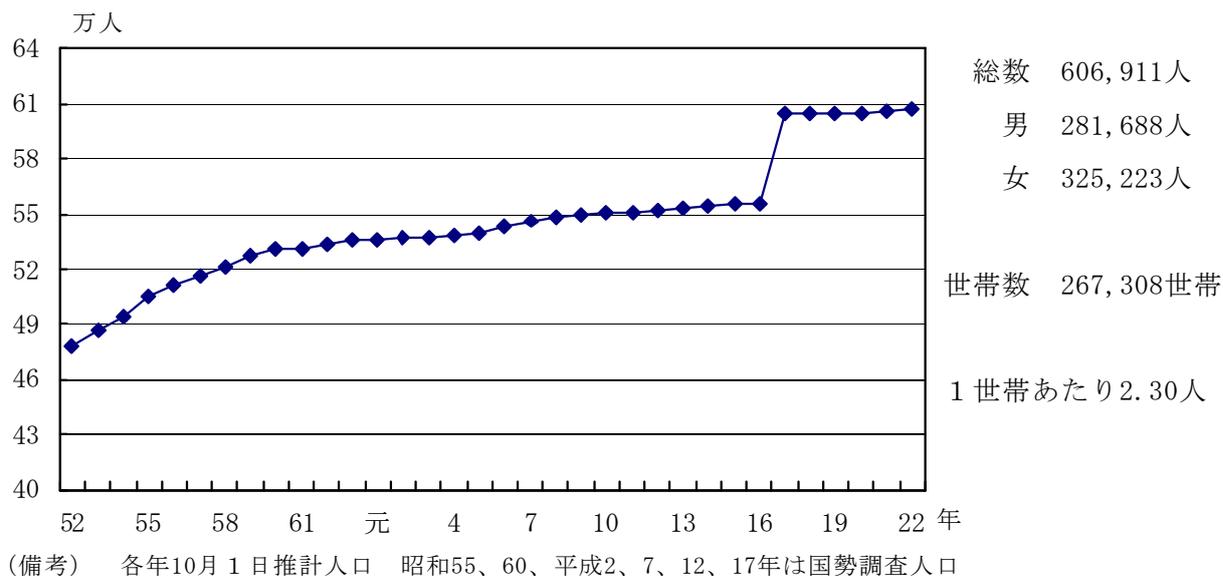
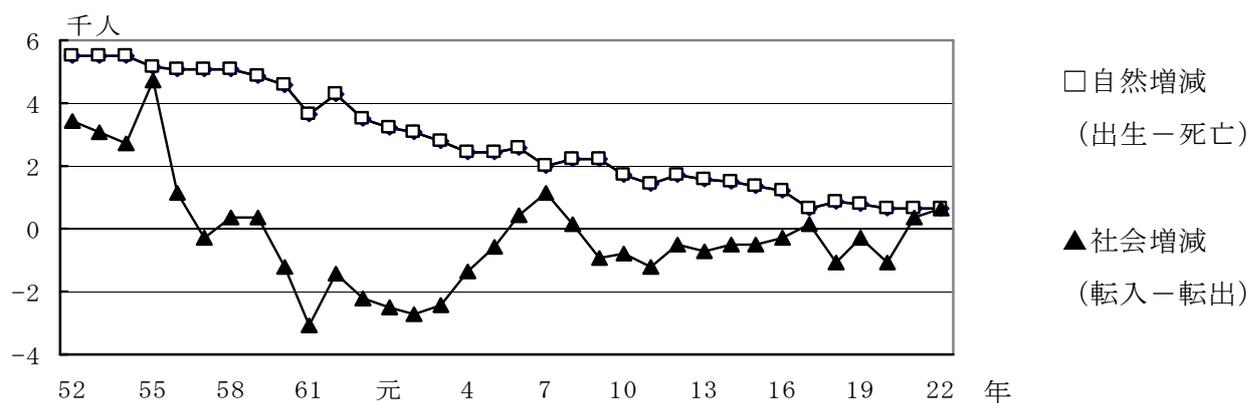


図1-2 人口動態の推移 (資料：市民課、総務課)



(備考) 各年1月1日～12月31日 昭和55、60、平成2、7、12年は国勢調査人口
平成16年10月までは旧鹿兒島市の数値

2 産業

本市は、商業・サービス業を中心に発展してきており、南九州における産業活動の拠点都市として重要な役割を担っています。

事業所・企業統計調査（平成19年11月28日公表）によると、産業別事業所数は卸売・小売業がトップを占め、続いてサービス業、飲食店、宿泊業の順になっています（表1-3）。

産業別の製造品出荷額等をみると、飲料・飼料・たばこ製造業がトップを占め、続いて食料品製造業、印刷・同関連産業の順となっています。

表1-3 産業別事業所数及び従業者数 （資料：総務省統計局）

	事業所数	従業員数
農業	39	342
林業	9	91
漁業	13	193
鉱業	10	69
建設業	2,542	22,503
製造業	1,331	17,173
電気・ガス・熱供給・水道業	28	1,446
情報通信業	300	5,777
運輸業	780	15,798
卸売・小売業	9,077	70,454
金融・保険業	570	9,802
不動産業	1,548	4,090
飲食店、宿泊業	3,910	25,297
医療、福祉	1,963	35,334
教育、学習支援業	1,158	15,136
複合サービス事業	258	3,705
サービス業(他に分類されないもの)	6,030	42,055
全産業	29,566	269,265

3 交通の状況

本市の幹線道路は、国道3号、10号、225号、226号などの主要幹線道路と、これらを南北に連絡する唐湊通線、鴨池高見馬場線、東西に走る鹿児島中央停車場線、ナポリ通線、中洲通線などの幹線道路によって全体の骨格を形成しています。

高速道路網は、九州縦貫自動車道が北九州～鹿児島市間で全線開通しており、南九州西回り自動車道や東九州自動車道も整備されつつあります。また、南は指宿スカイラインと接続しています。本市の自動車台数はここ数年、46万台を上回る水準で推移し（図1-3）、地球温暖化への影響が懸念されます。

鉄道は、鹿児島中央駅を中心に、鹿児島本線、日豊本線、指宿枕崎線の3路線が放射状にのびており、本年3月に九州新幹線が博多まで全線開業しました。

海上交通は、鹿児島港が桜島・大隅方面への港内航路、奄美方面や種子屋久及び沖縄への長距離航路の拠点となっています。

図1-3 自動車登録台数の推移（資料：鹿児島運輸支局、市民税課 平成23年3月末）

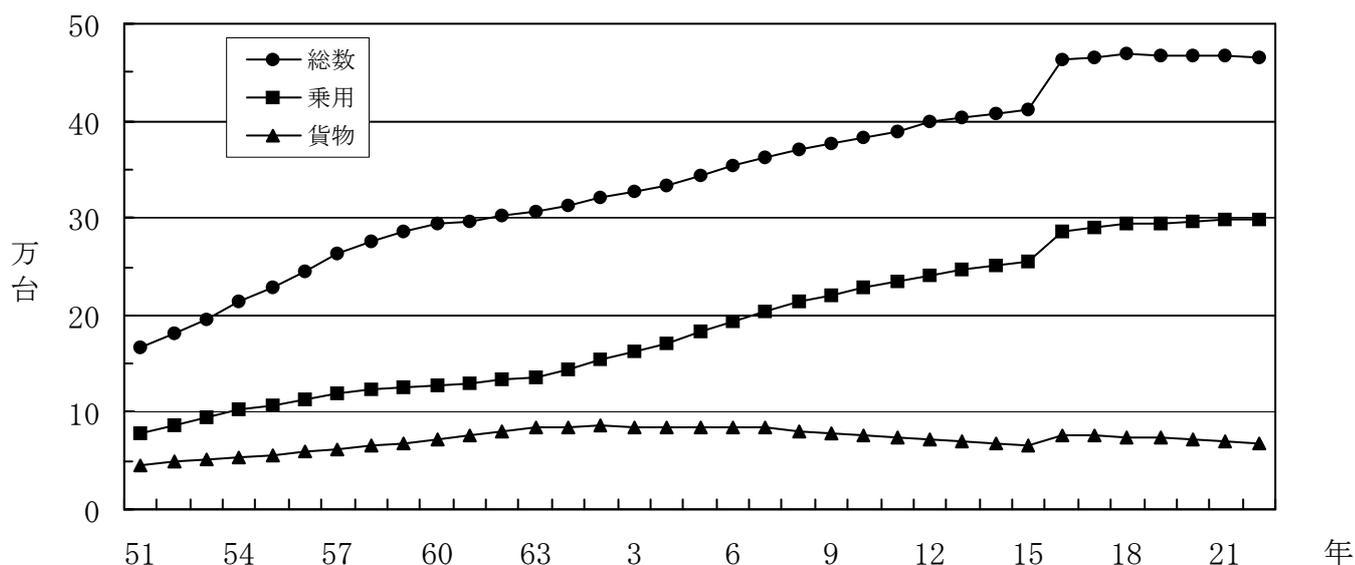


表1-4 車種別登録自動車台数（平成23年3月末）（単位：台）

総数	貨物用	乗合用	乗用	特種(殊)車	二輪車	原付
465,247	68,305	1,531	299,164	11,708	24,897	59,642

4 土地利用

鹿児島市域面積の約70%は都市計画法に基づく都市計画区域に指定されています。市街化区域は全市域面積の15.4%、市街化調整区域は37.6%です（表1-5）。

表1-5 都市計画用途地域の状況（資料：都市計画課 平成23年3月末）

	面積 (h a)	割合 (%)
【線引き都市計画区域】	【 29,002 】	【 53.0 】
市街化区域（用途地域）	8,442	15.4
市街化調整区域	20,560	37.6
【非線引き都市計画区域】	【 9,466 】	【 17.3 】
用途地域	428	0.8
特定用途制限地域	571	1.0
その他	8,467	15.5
都市計画区域外	16,238	29.7
合 計	54,706	100.0

用途地域	面積 (h a)	割合 (%)
第一種低層住居専用区域	約4,080	46.0
第二種低層住居専用区域	約 141	1.6
第一種中高層住居専用区域	約 410.5	4.6
第二種中高層住居専用区域	約 849.2	9.6
第一種住居地域	約 910	10.3
第二種住居地域	約 101	1.1
準住居地域	約 215.6	2.4
近隣商業地域	約 305.2	3.4
商業地域	約 503	5.7
準工業地域	約 536.3	6.0
工業地域	約 237	2.7
工業専用地域	約 582	6.6
合 計	約8,870	100.0

5 上水道

本市の水道事業における平成22年度末の給水件数は、287,698件で前年度より1,659件増加し、給水人口は、583,100人で前年度より900人増加しています。

年間給水量は68,299,476m³で、前年度より1,375,109m³（2.0%）の減少となっています。上水の水源別給水割合は、表流水が55.3%、湧水が29.1%、地下水が15.0%となっています。

用途別有収水量では、生活用水量が48,778,707m³で有収水量の77.8%を占めています（表1-6、表1-7）。

表1-6 給水人口と給水量

（資料：水道局 平成23年3月末）

給水件数	給水人口 (人)	年間給水量 (m ³)	有収水量* (m ³)		
			生活用水	都市活動用水	計
287,698	583,100	68,299,476	48,778,707	13,876,501	62,655,208

※ 料金徴収の対象となった水量及び他会計等から収入のあった水量

表1-7 水源別給水量

（資料：水道局 平成23年3月末）

水 源	年間給水量 (m ³)	構成比 (%)
表流水	37,744,760	55.3
伏流水	391,113	0.6
湧 水	19,906,909	29.1
地下水	10,256,694	15.0
合 計	68,299,476	100.0

6 公共下水道

公共下水道は、快適な生活環境を確保するだけでなく、公共用水域の水質保全についても大きな役割を担っています。

平成23年3月末現在の公共下水道の整備状況は、行政区域内人口に対する普及率が78.2%となっています（表1-8）。

表1-8 下水道の整備状況

（資料：水道局 平成23年3月末）

行政区域 内人口 (A)	処理区域		水 洗 化 人 口 (C)	下水道普及 率 (%) (B/A)	水洗化率 (%)	
	面積 (ha)	人口 (B)			(C/A)	(C/B)
605,682	6,818	473,500	462,400	78.2	76.3	97.7